

船舶事故調査報告書

令和2年11月4日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

| | |
|----------------------------------|--|
| 事故種類 | 衝突 |
| 発生日時 | 令和元年9月9日 02時55分ごろ |
| 発生場所 | 京浜港川崎区K2錨地付近 川崎東扇島防波堤西灯台から真方位089°1,350m付近 (概位 北緯35°28.9′ 東経139°46.1′) |
| 事故の概要 | 貨物船 ^{アジア} ASIAN JOY及び貨物船 ^{ジン} JIN A0は、共に台風避泊で錨泊中、ASIAN JOYが走錨してJIN A0に衝突した。 |
| 事故調査の経過 | 令和元年9月10日、主管調査官（横浜事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済み |
| 事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 | A 貨物船 ASIAN JOY (パナマ共和国籍)、5,578トン 9409704 (IMO番号)、MAJA MARITIME CORP. B 貨物船 JIN A0 (シエラレオネ共和国籍)、2,982トン 9565132 (IMO番号)、GAO WENXING |
| 乗組員等に関する情報 | A 船長A (フィリピン共和国籍)、免状不詳 B 船長B (中華人民共和国籍)、免状不詳 |
| 負傷者 | なし |
| 損傷 | A 船尾楼右舷外板の曲損 B 左舷船首部ブルワークに曲損、左舷船首部外板に擦過傷 |
| 気象・海象 | 気象：天気 雨、風向 北東、風力12、視界 不詳 海象：波高 約2.7m、潮汐 下げ潮の中央期 横浜市には、9月8日17時02分に暴風波浪大雨警報及び高潮注意報が発表され、本事故時も継続中であった。 |
| 事故の経過 | A船は、船長Aほか16人が乗り組み、空船の状態、台風避泊のため、令和元年9月7日22時54分ごろ、右舷錨を投下し、錨鎖を7節繰り出して単錨泊中、台風接近に伴い、同月9日に風勢が増してきたので、02時40分ごろ、機関を使用して左舷錨を投下し、錨鎖を右8節、左6節にそれぞれ伸出して双錨泊としたものの、走錨し、02時55分ごろ、A船の右舷船尾部が双錨泊中のB船の左舷船首部に衝突した。 B船は、船長Bほか14人が乗り組み、空船の状態、台風避泊のため、両舷錨を投下し、錨鎖をそれぞれ6節繰り出して双錨泊中、船首方から接近するA船を認め、VHF無線電話で呼び掛け、汽笛を吹鳴したりして注意喚起を行い、更に機関を使用して後進したものの、A船と衝突した。 A船及びB船の錨地は、水深が約20m、底質が泥であった。 |
| 分析 | A船は、台風が接近する状況下、単錨泊中、船長が単錨泊で船位 |

| | |
|--------------|---|
| | <p>を保てると思い錨泊を続けたことから、風勢が増して波浪が高まり、もう一方の錨を投じたものの、係駐力を超える外力が作用して走錨し、双錨泊中のB船に衝突したものと考えられる。</p> <p>B船は、台風が接近する状況下に双錨泊中、船首方から接近するA船を認め、VHF無線電話で呼び掛け、汽笛を吹鳴したりして注意喚起を行い、更に機関を使用して後進したものの、A船の右舷船尾部がB船の左舷船首部に衝突したものと考えられる。</p> |
| 原因 | <p>本事故は、夜間、台風が接近する状況下、A船が単錨泊中、船長が単錨泊で船位を保てると思い錨泊を続けたため、風勢が増して波浪が高まり、もう一方の錨を投じたものの、係駐力を超える外力が作用して走錨し、双錨泊中のB船に衝突したものと考えられる。</p> |
| 再発防止策 | <p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非常に強い台風が接近する状況下、錨泊を行う場合、船長は、双錨泊を基本とし、錨鎖を可能な限り長く繰り出して錨及び錨鎖で十分な係駐力を前広に確保すること。 |